

24年度第1回 運営推進会議議事録

平成24年4月19日

記録 石井

参加者

福祉課 介護保険係長	福川様
緑町 町内会長	首藤様
副町内会長	松木様
緑町 民生委員	松木(久)様
あかまつ ケアマネ	岩佐様、近藤様
ケアプランセンターそよかぜ	寺島様
ご家族様	小澤様、梶谷様
スタッフ	中村、松村、石井、村谷

中村： 七飯町の高齢化が進んでいる。実際に人と関わった結果、考え方がいったいどうなのか？皆さんにもお聞きしたい。運営推進会議をやっていく中で全国的な取り組みとして（役場の）課長も係長も変わりましたし、捉え方として介護保険制度も変わった。専門職の方いらっしゃいますけど、やはり地域密着型として日常活動経歴で活動しなさいというのが介護保険制度の第一の砦。専門職の方はどういう思いでやっているのか。専門職の方のお声を聞きながら、行政の声も聞きながら、実際に暮らしている方々の思いを聞きながら、運営推進会議を進めていきたい。実際、七飯町はどうなんだろう。ケアマネさんが七飯町を顧問しているわけですから「こんなケースがあるよ」「こんな思いがあるよ」というのを聞ければと思っています。その為にしゃきょうのケアマネさんにも来ていただいている。しゃきょうさんは地域福祉をどのように考えているのかなど聞きたい。いつもボランティアバスばかりだとあれなので、じゃあボランティアバスをするために地域としてどうしていくか。専門職としてどのような取り組みが必要かなど意見交換の場としていきたい。

今日は私が総合的にやらせていきたいと思っています。堅苦しくやろうとは思っていませんのでよろしくお願いします。

一人ずつ自己紹介

中村： 24年度の第1回目の運営推進会議の資料を配らせて頂いたんですが、これは後ほど説明させていただいて、口頭で虐待について皆さんご存じだと思いますが、道

新の記事をお持ちしました。高齢者虐待について、これが実際半年間に渡ってありました。いつの時期か、どのようにして始まったのか調べてみたんですけども、どこにも書いていなかった。虐待というのは高齢者だけではなく、ホントに小さい子どもから高齢者まで幅広い中で行われている。函館市のグループホームで行われた虐待と言うのは、正座をさせて、ご飯を与えないとか、自転車を止めるチェーンでドアに鍵をかけるとか、折り紙をやっている方に意地悪してやらせないとか、食事も味の無い物を与えたりを半年間に渡って行われた。もし七飯町で起きたのであれば行政の方でどうするのか。どうしてこういう事業者をこのまゝいいものなのか。私は正直反対なんです。正直者がバカを見るではないんですけど、実際に何が原因でこうなったのか。うちでも実際にご利用者様からスタッフがこまめたり、かっちやかれたり、ものすごい引ッ叩かれたり。ご利用様はスタッフを叩きますけど、スタッフが行えば高齢者虐待。絶対にしてはいけないが、人間としてこまめたり、かっちやかれたりすると心理的にそういうことも起きるんじゃないか。まあ実際にご飯も食べさせない、風呂も入れない、鍵をしめてしまう事があり、私はこういう施設は無くなったほうが良いと思う。これは氷山の一角。やった二人だけが解雇になっていますけど。

味の無い物を6人だけに食べさせたと書いていますが、6人だけ味の無い物を食べさせて、他の人には味のある物を出す。こんな難しい事ないですよ。ということは、全ご利用様がこういう状況であったという事なんです。10年以上グループホームをやらせていただけていますが、ものすごく悲しい出来事だと思います。ここまではうちでは無いんですけど、実際にかまめたりすると、腕から離れないんです。経験ありますよね。そういう事をされればカッとなって突き飛ばしたりすることもあるかもですけど。七飯町は私のところの事業所としゃきょうさんのところと花かぞくと5箇所しかないので、今回こういうことは起きてはならない。グループホームだけではなく、七飯町内には老健や特養、病院、そして居宅さん。こういう事を例えば近藤さんがグループホームに訪問調査に入りましたと。なんか様子がおかしいと思うんですよ。おじいちゃん、おばあちゃんがオドオドしてるとかあると思うんですよ。そういうのも町内の中で専門職が調査に入ったり、デイサービスに行ったり色んなところに行って、ケアマネさんがいらした時に「このグループホームおかしいよね」とかご家族様がこられた時に「なんかこのグループホームあやしいよね。うちのおばあちゃんにご飯食べさせてないんじゃない」だとか、そういう気持ちは持っていたきたい。地域の方も、職員と一緒に散歩をしているので、その時に「いつも青タンばかりだよ」など見て欲しい。おそらく「柱にぶつけた」とか「便所の角にぶつけた」など言い訳すると思うんですけどね。大事になる前にご家族様であったり、専門職の方であったり。地域の方達が役場であったり、違う機関に相談することが大事。うちも

いつあるか分かりません。今いるスタッフは今の所なんとなく無いような気がします。しかし、この業界は人手不足。いつ・どこで人が変わってスタッフが入って来るか分かりません。そんな時に今まではいなかったけど、新しく入ったスタッフが「どうもこの人の夜勤の時に、じいちゃん、ばあちゃん骨折するんだよね」「アザ出来るんだよね」と言うのが経験の中にあります。そういう部分で皆さんで目配り・気配りをしていただけるような形をお願いしたい。大事になる前に皆さんから声を聞きたい。声っていうのは「言ったらあそこの事業所に悪い」という思いではなくて逆に「あそこの事業所を良くしてあげたい」という思い。ご家族様は「預かってもらっているから言えない」ではなく、いろんな事をたくさん言ってもらいたい。悪い所は直していくので、皆さんをお願いしたい。私もグループホームをやっているので他人事ではない。

寺島様：介護ってホントにいつまでって言う期限がないから、頑張ろうと思ってもやっぱり続かない。そういう時にサービスをうまく利用してくれれば一番良い。例えば在宅で見れるだけ見るなら、これ以上我慢して自分達も壊れそうになる。そういう時にどこまで相談していいのか。みんな「私やります」「頑張ります」と言っても続かない。その為にサービスが出来ているという事を分かってくれたらと思う。中には受け容れない方もいるので、どこかで相談をいただけたと思います。

近藤様：頑張りすぎるとご家族もいて、先に潰れてしまう。どこにも行かれない。少しでも相談していただければと思います。

中村： ご家族様の立場からいかがですか？

梶谷様：私も頑張りすぎた。母は徘徊して迷って家に帰って来れなかった。「お買い物したよ」と言うんですけど目的のお買い物ではなく歩いて歩いて行ってしまう。夕方になるまでそれがあって家族が探して歩いて。私も心臓を悪くしてしまっ。あまり自分で頑張りすぎるのも良くないと思いました。

小澤様：私が困らないように、頑張らないようにするために施設とかサービスの利用を勧めてくれた。意思疎通が出来ていても、結構娘である事を忘れられた。私は誰でしょう？状態になり、本人に伝えても、伝わらない事がかなりあった。家族として寂しい思いがあった

中村： 緑町で虐待とか似たようなケースはありますか？

松木 (久) 様 : 一人ひとり生活している所に行くんですがそういうあれはないんですけど、やっぱりさみしいですよ。行けば喜んで出てくる。お話しするといつまでも話しをしてきて「上がっていきなさい」と言われるけども上がられないので。

中村 : どこまでが虐待でどこまでが虐待じゃないのかというのは未知とのところなのかなと思う。絶対あってはならないことなので、まずはこれを第1のテーマとして挙げた。道で高齢者虐待委員会が始まっている。今までグループホームから虐待についての情報が少なかった。去年は検挙で20件以上あった。その中の10件が老健や特養で残りの10件がグループホームだった。「お風呂に入れてくれない」「病院に連れて行ってくれない」「骨折しているけどそのまま」とか食事を自分で食べられない方の食事をごちゃ混ぜにして食べさせたり、お金を預けた・預けてないと言った事例があった。4/1~今までで3件上がってきている。北海道のグループホームは全部で900件ある。1ヶ月以上水道の水しか飲ませないとか家族がジュースを持って行っても飲んだ形跡がなくスタッフが飲んでいて。明日は我が身なのでうちのホームも気をつけないといけない。ご家族の方も怪しいと思ったら言ってもらいたい。スタッフの声掛けの言い方など見てもらいたい。地域の方も散歩とかしている最中に頭とか叩いているのを見かけたら、即役場に通報してもらいたい。ないとは思いますが、どう？

村谷 : うちの方で今日18時から虐待の勉強会行います。介護現場のストレスとコーピングを考えるとと言う事で、虐待は決してあってはいけない事。スタッフも人間であってストレスを何で感じるかは人それぞれだと思うので、そのストレスから虐待に繋がっていくんじゃないか。グループワークしながら考えていきたい。是非いらした時には気兼ねなく話してもらいたい。

中村 : 申し訳ないという気持ちから言っていたかかないと言うのが一番恐いですね。そういう病気があってここにいるので、ツバをかけられました、噛み付かれました、蹴飛ばされました、などがあつたら素直にご家族様に伝えますので、その際に振り払うのに少し突き飛ばしてしまいましたなど正直に伝えれば私は良い事だと思う。事実を素直にご家族様に伝えてください。そうすればご家族様も理解していただけると思う。隠そうとするのが一番ダメ。一方的に噛み付こうとする人はいない。スタッフの声掛けが悪かったり、本人の虫の居所が悪かったり。片方が一方的に悪いという事はない。100%あってはいけないが、起こり得る事だと思う。皆さんのご理解をいただきたい。在宅の方でも経験ありますよね。

寺島様：長い事経験しているけど、今までないですね。

中村： 私は興奮状態を止めようとするから余計なのでしょうね。蹴飛ばされた事はないけど叩かれたことはありますね。

4/28 に文化センターの方で虐待の講演会があります。石川先生っていうのは、道の虐待委員会の委員長で北海道医療大学の教授なんですけど、今の虐待の現状について話をさせて下さいという事をお願いしてきたので、皆さん是非お時間があれば参加していただきたい。

首藤様：町内会の方で出れる人について回覧しました。今で10人までは行ってないが、近いくらいは集まっています。勉強させていただきたい。

中村： よろしくお願ひします。あともう一つなんですけど、ここ2週間くらいなんですけど、包括さんと、もともとは岩佐さんが担当だったんですけど、地域の方で91歳のおじいちゃんなんですけど、奥様は病気があって精神科の方にかかっている。ここ2週間くらい体調を崩したのか、オシッコが出ない。ななえ新病院さんの方に入院した。娘さんが遠方でなかなか来れず、本人の好きなようにという事で入院した。退院して在宅生活を送られてきた。あかまつさんの包括をいれるとかヘルパーさんをいれるとか色々試してみた。認知症状も出てきているので、病院受診した方が良いと思うし、早く家族さんに来てもらった方が良いというケースだったんですよ。私の考えで言うと、91歳でも100歳でも、その人が地域の中で好きなものを食べて、亡くなっていくというのは良いことだと思うが、私たち専門職だと、その方が安全に暮らしていく為に、どこかの場所をきちんと提供してあげたりすることが、私たち施設をやっている側の考え方だと思う。ご家族として良かったんじゃないですかと。地域の中で好きなものを食べて。家族もなかなか来れないで「お任せします」という感じだった。本人が地域の中で亡くなっていきたいという考え方もあると思う。最終的に包括の担当の方と相談して「このままでいいのか」「私は即入院をして」というのは本人の意じゃないが、万が一そこで命を落とすのなら、自分の精神状態をコントロールして亡くなっていくのも私は一番良いんじゃないかなと思う。そういう地域の事例が実際にありました。介護認定も降りて、亡くなったら介護認定降りるのか。

寺島様：一応サービスを使った分はちゃんと請求されます。

松木様：今の話ですけど、介護サービスを受けてた方なんですか。

中村： 介護サービスは受けてない。全部拒否していた。最初うちのデイサービスに来てお風呂にいれたり、朝・昼・晩の食事をしようと思っていた。ここのデイでは無理なので本町なんですけど、いったん弱っていた時には一回来てくれた。ところが、私が来た時には水分も取れてない、脱水状態だった。まずご飯食べてもらって、水もペットボトルを持って行って飲んでもらったり、毎日うちのケアマネが土日にカンファレンス開いたりしてたんですが、本人がサービスを拒否していた。あと一番の問題は家族がすぐに来てくれなかった。そこには家族とご本人の人間関係っていうんですかね。

寺島様：最近多いですね。どうしてそこまで出来るんだろうって。なんかさみしい、かなしい。時代が変わったんだろうか。

松木（久）様：私は通うからわからないんですけど、娘さんよんだ、私も仕事してるからって。

寺島様：昔と違って親の方が子供の事に気を遣って遠慮してる。

中村： 親が諦めちゃうんですかね。

寺島様：どうなのでしょう。でも変りましたよ。

松木（久）様：今はやっぱり子供に遠慮している。

松木様：そういう親もいます。現実に。頼りにしてその通り来てくれる親もいます。それは遠い、近い関係なく。

寺島様：小さい時からいろんな事があるんじゃないですか。ホントに良い関係で育ってきて大人になって社会人になったらいろんな事があってそういう形になっていくんじゃないか。

松木様：いろんな事っていうのは、一般に生活している我々にもあるんですよ。現実問題でね。

中村： どんなことがありますか。

松木様：施設にお願いする方は、一般の人と違う精神的になにか弱い部分があって、うま

くコントロールできない人が多い。家族もなかなか大変だというものがあって、介護認定を受けて入っていくんだと思うけど、そうすると今度、施設の側に立ってみれば、そういう難しい人をお世話しなくちゃいけない事になるんですよね。個人差があって、肉体的に難しい人もいれば精神的に難しい人もいる。そういう人を扱うという事は難しいんですよ。施設の側にとっても。だけど、お金もらってやっているわけだから、一般の人とは違うような手当をしてあげないといけない。この新聞の記事を見れば、この業界だけでなく一般の業界でも多々ある。内部告発するまで分からない。扱った人が「こういう事あった」という情報を共有できる。情報を共有してないのが一番の原因じゃないか。「こういう事がありましたよ」という事が分かっていたら出せばいい。出て来ないから結局・・・

中村： 味の無いご飯を誰も食べないと思いますよね。

松木様： まあそうですけど、現実にはここで出ているので。

中村： 器用ですよ。味の無いご飯を出すって。プロフェッショナルですよ。めんどくさいじゃないですか。味の無いものだけわざわざ取っておくなんて。

松木様： めんどくさいんだけど、そのところが一般の企業でもあるんですよ。隠しておいて、内部告発が出るという事になると、相当人変わってから、にっちもさっちもいなくなってから。情報を共有してやっていけばいい。

中村： 叩かれたら叩かれたって言わないと。遠回しに言えば、うちの職員が叩いたって事になりますからね。たとえば、違う家族が見た時に、職員が叩いているのを見たら言ってくれればいい。

松木様： こういう事があったら教えますよという事を伝えた方が良く。その辺のところを言っても行き違いはあると思うけど・・・

寺島様： でも、在宅生活でいろんな事を考えて施設でお願いして、それを踏まえての皆さんの仕事ですよ。いろんな事があって当たり前の方々をお世話している。そう考えたら、在宅で身体的にご病気で不自由な方もいらっしゃるけど、精神的にそういう方も在宅にはいろんな、千差万別ですから。ここのグループホームは認知症という診断を受けて入ってくるが、私たち在宅では 100 人いれば全員違う。それに合わせたケアプランなりサービスの提供をどうしますかという相談、それを常に思っているんで、当たり前なんですよ。

近藤様：ちょっと違うかもしれないんですけど、介護というのは施設に入れたからって放棄しているとかではないと思う。グループホームさんもそうなんですけど、ご家族さんにお会いして声掛けしていろんな事をするというのも介護の一つだと思う。うちも老健なんですけど、全く来られない方もいます。来られなくても電話をいただく事もあります。それも介護の一つだと思う。その人それぞれ出来る事はあると思うので、毎日来るから介護しているとか、お家で毎日見てるから介護しているという事ではないと私は思う。

岩佐様：施設に入ったからと言ってご家族の責任が終わるのではなく、支払いをしなければならぬ、人間ってやっぱり監視されると嫌だと思う。家族の方も「何でも言って下さい」と言われてもなかなか言えない。そういう時に家族があつたり、こういう運営推進会議があつたり、面会した時に職員の方と話をするとか、そういう人間関係作りは必要なのかなと思う。

中村：そうですね。すごく良い事言ってくれた。それがこの運営推進会議なんです。だから順番にご家族さんに出てもらって、今やっている事をお話する事でいろんな気付きをもってもらえれば良いかなと思う。また、地域の方でお亡くなりになってしまつたりとか、1ヶ月くらい大中山の方が見つからなくて、亡くなって1週間くらい経っていた。たしか先月ですよ。七飯町でも民生委員さんと事業所、それから行政とのネットワークをもっともっと構築していきたい。七飯町の包括って3人くらいしかいない。てんやわんやしている状態。地域の介護支援専門員さんと民生委員さんとの意見交換の場とか、そういうものを町として作るべきだと思う。役場の中でも3カ月に一回くらいで地域・・・会議ってあるんですよ。

岩佐様：地域ケア会議ですか。毎月やっています。

中村：福川さんをお願いしたいのは、地域の方々も高齢化している。会長も副会長も民生委員さんも。地域ケア会議があるなら、地域の民生委員さんだったり、町内会長さんを入れて、緑町だったら、今の緑町の現状を話し合ったり専門職ともっと民生委員さんと町内会がコラボレーションしていくことが大切だと思う。社協さんの方でネットワークあるんですよ。形として。

寺島様：社会福祉協議会の方で地域福祉推進会議ってやっていますよね？各町内会で。今はないんですか？私が社協にいるときは作ったんですよ。私がいた時は各地域で推進会議をやってお互いに支え合おうっていう事で。

中村： 町内会さんと民生委員さんだけでやったって、高齢化だからそこまで考えられない。だったら、専門職の一人でも入って話し合いが出来れば、顔のつながりも出来ると思う。町内会でそういうのありますか？

松木様：あります。（ハッピー）顔見知りですから。

社長： 電話とか出来ますか？

松木様：町内会はまず民生委員に連絡するんです。そこまで連絡することは今のところないです。

中村： 町内会は民生委員にかける。じゃあ、民生委員の役割がどこまでなのかわからないけど、本人がオシッコも出ない状態で、私たちが行くまでそのままいるなら、専門職の方に「ちょっと来てくれませんか？」というようなシステム作りを七飯町は考えないのでしょうか。前から提案してるんですがどうでしょう

福川様：地域ケア会議の部分も4月の下旬に予定してるんですが、私も会議に出席した経験がないので感触は分からないんですが、今内部で地域の設定をしています。そういった形でしか意識がなかった。

岩佐様：七飯町さんの地域福祉計画の中で色々議論する場に出席させていただいたが、向こう三軒両隣仲良くみたい。そういう繋がりが七飯町も必要なのかな。特に東日本大震災のあとは、災害時の対応とか、そこら辺の議論がされてました。

首藤様：本町福祉地域福祉推進会議の総会がありまして、そこでは課長さんが来て、これからの七飯町の3年計画はこういうものですよという所までは話された。しかし、一方的に聞いているから話し合いではなかった。なかなかそこをイメージ、理解して何かをやろうという所まではいかないんですよ。

寺島様：私が1回だけありますよ。スターホールに地域の民生委員さんと町内会長さん私たち福祉関係が一堂に会した事あって、そこで結構話あった事あります。ただ、民生委員さんは個人情報で言えないとかあったんですが、結構集まりました。

松木様：民生委員も個人情報って言いますが、ヘルパーも個人情報。これから話し合いを進めていかなきゃいけない。

中村： 専門職が入ったり町内会、民生委員が入って、たとえば、緑町ならどういふ緑町を作っていこうか。本町なら本町をどう作っていこうか。そういう事をどんどん推進していて 2 年前から言っている。まず、震災が起きた、じゃあ七飯町の避難地域はどこなんですか。耐震強度が大丈夫な所はどこなのか。そういうネットワークを作って下さいと言っても町は動かない。保健福祉計画にも立派な事が載っているけど、あの 3 年保健福祉計画は実際遂行されていない。行政で通すだけの内容になっている。

首藤様： 町内会からも防災関係の事で話はして、これから作るっていう事は去年から言われている。建物については大中山の所を直さなきゃいけないという風な形で、もっと大きな所があつて、たとえば緑町会館の防災についてどうなんだっていう所も現実には手が回っていない。他の地域でも建物の耐震強度しっかりしているところはあまりないんじゃないかと思う。

中村： そうすれば町からの委託で新しくできた施設だとかそういう所で支援をしてもらえるような、提携を結んでいる所はたくさんある。保健福祉計画が揺らいできていと思うので、そこはどうなんですか。

福川様： 実際には、その耐震強度を満たしているかと言われれば、満たしていない施設は当然あります。建設年次が古いものは、そういった基準がなかったもので、それを建て替えるタイミングで財政を見た時に順次やっていくという形にはなっているが、当時建てたものをまた建て替えるとなると、それ相応の金額が必要になります。役所で全てやるというのは現実的に難しい。民間の施設の中で耐震の基準を満たしている所があれば、協議させていただいて、各地域ごとに受け入れを進めていただくというのが現実的な方策の一つだと思う。

中村： 去年の震災が起きた時に皆さんそう言ったんですよね。震災が起きてから 1 年が過ぎましたよね。あつという間にね。

寺島様： だんだん意識が薄れていきますよね。

中村： 何でも花が咲いて、しぼむのも早い。そういう所を福祉計画に基づいて、もっともっと地域の人や民生委員さんや専門職、病院関係とかいろんなチームが集まって、顔の見える様な話し合いをして、ネットワークを作っていきたい。SOS ネットワークもやっている。今年もやらせてくださいとお願いしてきた。3 年やってきて、少しはネットワークが出来てきたのではないか。去年はあまりうまくい

かなかったが、皆さんの参加型という事で、次はどうやって行っていくか。終わった後の検証もしなければ、その後どうするのかもやらない。大きい花火がドカーンと上がったら終わっちゃうんですよね。七飯町は。私は不思議ではない。

松木様：七飯町だけじゃない。ほとんどそうです。

中村： そうですかね。でも、やっぱり福祉課がしっかりしている所は、全道・全国見れば福祉課の課長、係長が頑張っている所は・・・

松木様：町内会は仲の良いちゃんと連絡してる良い所がある。そういうような事を進めていけば良い。

中村： たとえば七飯町で震災が起きた時に自分の所の町内会だけ大丈夫で、他の大沼や大中山のなどの地域が全滅した時に、緑町だけしか残らなくなる。

松木様：そういう話ではなくて、今そういう事を進めていきますよという話です。

中村： 松木さんはこの運営推進会議に毎回出て頂いてますが、何一つ町は変わってないですよ。断言して言わせてもらいます。

岩佐様：SOSネットワークの取り組みをしたから、良いものはやっぱり継続していきたい。

寺島様：行政に期待したいが人事異動ですぐ回されて、前の計画を引き続きやるってなっても難しいですよなって思った。民間なら専門職がいて、ずっとって事も出来るけど、行政は人事異動で回されますよね。

中村： それをクリアするのが公務員なんですよ。

寺島様：きちんとやっていると思うが、全く違う部署から来て、特に福祉って一番難しいと思う。どこの市役所に行っても「福祉は大変だ」と皆さんおっしゃる。だから地域の方みんなでまとまって盛り上がっていかないと成り立たない。

首藤様：今日も役場に行って機構改革した一覧表をね、スポーツセンターに貼ってるでっかいのがあるんですが、その小さいやつ。A3判でプリントしてもらって。誰

がどういう風が変わったのか分からない。

寺島様：今回はかなり大きな異動ですよ？

福川様：そうですね。

首藤様：結構中身も変わってるんですか？

寺島様：そう。

中村： 根本的に七飯町役場が私は言っちゃ悪いと思うんですが、機能していない。ご利用者様にも迷惑がかかる事になる。制度改正がありましたから、単価も変わってくるし加算も変わってくる。それを申請出すわけですから。

寺島様：今年が一番大きな法改正だと思う。

中村： 時間も無いんですが、お買いものバスもそうなんですが、今年度の運営推進会議に関しては、こういう議論をしたい。町内会さんや専門職、民生委員さん、ご家族様も集まってもらって、ご家族様にしてみれば天気の良い時にはお散歩してお花を見てきたり、お買いものに行ったりして「おばあちゃん元気だった？」とか地域の方に自然と声をかけていただけるような町作りをしようというのがSOSネットワークの始まりなので、声をかけましょうという事です。みんなが気にかけるというスタンスでいきたい。今年はこのテーマで運営推進会議を進めていければと思っているんですけど会長さんどうですか？

首藤様：うちの緑町でも知らない間に亡くなった方もいる。最近ではないが。高齢化率も高くなってきた。いつの間にかいなくなったら病院に入っているとか。そういう情報が結構ある。知らない間に亡くなってしまって、後から発見された場合にかわいそう。それをどう地域で取り組んでいくか。町内会としては班長さんや民生委員さんと集まって話し合いをしたいなと思っている。

寺島様：社協にいた時期が平成7年からいました。その時に地域推進会議を立ち上げて3か所に分けて地域で支え合いましょうという取り組みで行っていたが、だんだんしぼんでしまった。もう一度力を入れて、民間と一緒に進めていければ良いと思う。行政は行政で出来る所をバックアップしてやっていけば一番いいのかなと

思う。行政で出来る事と民間で出来る事は違うので・・・

中村： 行政にお金を出して下さいとは言っていない。そういう橋渡しとコーディネートをちゃんと行政でやってくださいという事。もっと頭を使ってコーディネートをしてもらいたい。けして難しい事は言っていないです。

行政と民間がいかにコラボレーションしていくかが改正の柱ですから。社会福祉協議会が優先的にやるような町村は伸びない。

こういう風に雑談形式でその時その時で議題を決めてやっていければと思うので今年度もよろしくお願いします。

以下、質問等ないため終了